

ぼんしょう じょうぐうじ
梵鐘 (上宮寺)

種 別	小松市指定文化財 工芸品
指定年月日	平成9年11月3日
所 在 地	細工町 (上宮寺)

上宮寺は初め石川郡押野村（現在の金沢市押野・野々市市押野の周辺）の辺りにあり、天台宗太子堂と称していた。後に蓮如上人に帰依して浄土真宗に改宗し、上人より「上宮寺」の寺号を賜ったという。寛永年間（1624～1645）に、前田利常から寺地を与えられ、現在の地に移った。この梵鐘はそれから約40年余り後の元禄2年（1689）の製作である。

作者は宮崎義一（初代寒雉）である。義一は鑄物師として47年にわたり梵鐘や茶の湯釜を製作しているが、この梵鐘は義一が59歳の時のもので、技術的にも円熟した時期のものである。



全体の形は鐘の身に対して口径が大きく、ふっくらとした印象である。また鐘の中央部の池の間には、唐獅子が牡丹と戯れる姿を陽鑄で描き、その上方には銘文が刻まれている。鐘をつく撞座には蓮華が描かれており、その上部に「南無阿弥陀佛」と陽鑄される。

初代寒雉作の梵鐘の中でも評価が高く、保存状態も優れ、貴重な資料であるといえる。